ドイツプロサッカー・ブンデスリーガ監督のステップアップに関する研究

トップスポーツマネジメントコース
5012A321‐0　　三浦　俊也　　研究指導員：平田　竹男　教授

本研究は、ドイツプロサッカー・ブンデスリーガ監督のステップアップについて明らかにしたものである。

1.諸言

筆者はJリーグで4チーム400試合以上監督として指揮をとった経験があるが、選手としてはトップリーグでの経験はない。監督になるためのコーチングライセンスはドイツと日本で取得をした。日本のコーチングライセンスはドイツのライセンスをモデルにしてきた背景があり、制度、内容ともに共通した部分が多い。しかし大きく異なる点は、ドイツではプロ選手経歴のない監督は多く存在するが、日本では、プロ選手経験のない監督は希少な存在である。

よって、本研究では、ドイツプロサッカー・ブンデスリーガ監督のステップアップに関して明らかにすることを目的とする。

2.研究手法

研究1.文献調査

(1)本研究では、まず文献研究を行った。ヨーロッパ4大リーグ（ドイツ、イングランド、スペイン、イタリア）とJリーグ各1部リーグ全チームの過去10シーズンについて、以下の分析を行った。ヨーロッパは2011－2012シーズン、Jリーグは2012シーズンを対象とした＞

1.選手時代の経歴
2.各国リーグの外国人監督の割合
3.監督の平均在任期間

を調査した。

(2)次にブンデスリーガ1部 18 チーム全監督の過去10シーズンに関してキャリアを調査し、監督になるためのルートについて分析した。

1. プロ監督になるまでのコーチキャリア
2. 選手引退後初のコーチキャリア
3. プロ監督直前のコーチキャリア
4. 監督経験チーム数（1部限定）

研究2.インタビュー調査

次にドイツでインタビュー調査を行った。インタビュー対象者は、ドイツプロ1部リーグでの監督経験者と監督決定に責任を持つ強化担当責任者である。監督経験者には、監督になるためのキャリアアップのプロセスと必要な資質について、強化担当責任者には監督決定の経緯と条件について尋ねた。

3.文献調査の結果

(1)ヨーロッパ4大リーグとJリーグを比較したがプロ選手経歴のある監督が大半を占めるのがイングランド（1.2 部経験者合計 95%）と日本(同94%)であった。ブンデスリーガの監督はスペイン、イタリアと並び 20%以上がプロ選手経験はなく、この3カ国は多くのアマチュア選手経歴の監督がいることがわかった。

(2)プロ監督になる過程の中では、多くの監督がアマチュアチーム監督、プロチームのアシスタントコーチ、U-19（ユースチーム）監督のいずれか、あるいはその全てを経験していることがわかっ

た。さらには、プロ監督になる直前に存続するこの 3 つのルートの中ではアマチュアチーム監督が最も多く、次いでプロチームのアシスタントコーチ、U-19（ユースチーム）監督という結果であった。プロ監督になって以降の 1 部リーグでの経験チーム数は 2 チーム以下が合計 88%と大半を占めていた。

4.インタビュー調査の結果

インタビュー調査結果を対象者の属性「プロ選手経験のある監督」、「プロ選手経験のない監督」、「強化担当責任者」ごとにまとめた。「プロ選手経験のある監督」からは、プロ選手経験はアドバンテージとはなるが、それだけでは不十分であり、リーダーシップ、選手をモティベートする力、的確なトレーニングと戦略の重要性が指摘された。「プロ選手経験のない監督」からは、プロ選手経験というアドバンテージがない部分を補う能力の必要性が指摘された。「強化担当責任者」からは、監督選びにおいて重要なポイントとして、選手経歴よりも、メディア対応力、リーダーシップ、モティベート能力、的確なトレーニング、戦略などが指摘された。

5.考察

1)ヨーロッパ 4 大リーグと J リーグ監督の現状分析結果から、

ドイツ・イタリア・スペインでは、プロ選手経験者のみならず広い範囲から監督を発掘していることで、より高い資質のある監督が出てくる可能性が高いと言える。今回の研究に加え、ドイツ・ブンデスリーガでは現在観客動員世界一、UEFA ランキングの上昇（現在 3 位）など、ヨーロッパリーグでの近年の活躍から、多くのドイツ人監督が国外に進出し活躍していく可能性が推測される。

2)インタビュー調査の結果から＜監督の資質については人間性（リーダーシップなど）とエキスパートとしての能力（戦術・分析・トレーニング）が必要であると示唆された。選手としての能力とは異なるために、独自に能力を身につける方法を見つける必要があると言える。

3)ステップアップ構造において、ドイツでは 3 つの大きなルートがあり、各クラブにおいて、監督候補を広く調査し、下部リーグからでも監督を抜擢するという考え方が肯定的に成されていることがわかった。つまり、監督の能力を選手経歴やチーム順位だけでは判断せず、各クラブの状況を考慮しながら適正な評価をしているということであり、選手時代の実績のない監督のステップアップが可能となっている。しかしプロ選手実績がない監督が初めて監督になった場合、選手からのリスペクト、メディア・ファンからの理解に問題があることが全ての強化部長から指摘された。ドイツでは監督のメディア対応力が重要なことと認識されており、そのことに関してドイツでは独自の解決方法を持っている。

a)1 つめは二頭体制を敷くということである。スター選手の多いチームにおいて無名ながら優秀であるコーチにグランド内での責任を任せながら、横に元著名なプロ選手を座らせる。彼がいることで選手からのリスペクトを得ながらメディア対応も同時に行い、対外的理解も得ながらチームを機能させていく。さらにその後、無名監督は一人で引き受け次のステップアップを果たしていく。

b) 2 つめは強化部長の監督サポート体制である。彼らはブンデスリーガの中では監督とともにチームの内情を知る者としてスポークスマン的役割を果たしている。何人かは監督とともに試合中のベンチに入っており、批判を分散させ、チーム・監督・選手を擁護する盾としての役割も担っている。

以上のことからドイツサッカー・ブンデスリーガにおける監督のステップアップのプロセスと可能性を明らかにすることができた。